

## ワイヤレスブロードバンド実現のための周波数確保等に関する意見

意見提出元	RKB毎日放送（株）
-------	------------

意見項目	意見内容
(1) ワイヤレスブロードバンドの今後の展望	<p>ネットワークの高速化に伴うワイヤレスブロードバンドの更なる発展は、情報化社会における企業から個人までの幅広いユーザーに必要不可欠なもので、その実現に大きな期待が寄せられている。しかし、そのためには技術開発はもちろん、周波数確保が重要な課題となっており、我々もその点を認識している。</p> <p>3.4～3.6GHz帯域がITUにおいてIMTに特定されたことを踏まえ、弊社の3.4GHz帯音声STLの放送事業用固定局を別帯域への移行を予定しているところである。</p> <p>今後のワイヤレスブロードバンドでは、この3.4～3.6GHz帯域を中心に高度化が図られるものであると考える。</p>
(2) ワイヤレスブロードバンドを実現するための課題	<p>最も重要な課題はワイヤレスブロードバンドを支える技術開発と周波数確保の問題であり、互いに相関関係がある。</p> <p>前項にも明記した3.4～3.6GHz帯域のほか、情報通信審議会の答申により、テレビのアナログ放送終了に伴い730～770MHzは携帯電話等の「電気通信」に割当ての方針となっており、当面の周波数確保はなされたものと言える。</p> <p>今後は、限られた周波数資源をより有効に活用する為のワイヤレスブロードバンドにおける技術開発と隣接周波数帯にある各種無線システムとの共存条件など、所要の技術検討を早急に進める必要がある。</p>
(3) 関連する国内外の動向と課題	<p>上記(2)で述べた730～770MHzに隣接する770～806MHzは、放送業務用800MHz帯FPUと、特定ラジオマイク/デジタル特定ラジオマイクの二者で周波数を共用して、放送事業者のほか、イベントや舞台など多くのユーザーが様々な状況下で日々使用している。</p> <p>また、800MHz帯FPUと特定ラジオマイクには相互干渉等の問題があるが、その運用効率を上げる為に、放送事業者間、或いは舞台などの事業者間で調整を行い周波数の有効利用を図っている。</p> <p>800MHz帯FPUは、その特性上、遮蔽物に囲まれた場所からの報道中継や移動中継等では必要不可欠な伝送手段であり、この装置が果たす社会的役割は大きいと考える。さらに、現行の800MHz帯FPUはSD方式の為、弊社ではHDTV伝送を可能とする変換装置を開発し、スポーツ中継や情報番組などの自社のHD番組制作に積極的に使用しており、放送を通じて電波の有効利用と言う観点からも国民への還元を果たしている。</p>

	<p>今後、視聴者からの様々な要望を満たす為、中継やイベント等でこの伝送方式を用いる機会が増えていくと予想される。また、このような中継では、特定ラジオマイク/デジタル特定ラジオマイクを音声伝送に利用することも必然となっている。</p> <p>特定ラジオマイク/デジタル特定ラジオマイクは、ドキュメンタリー・報道の取材から情報番組・スポーツ中継や各種イベントなど、日々の番組制作に於いて欠かせないものとなっている。また、前述どおり放送事業者だけでなく、幅広いユーザーが各所で日々使用している。中でも舞台やコンサートホールなど芸術分野での使用も多く、また出力が微弱であることから十分な保護が必要であると考ええる。</p> <p>弊社としては、今後も、この帯域の有益性を考慮し、更なる有効利用を進める予定である。</p>
<p>(4) その他、将来のワイヤレスブロードバンドによるサービスやシステムに関する事項</p>	